



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

王子神谷雲母保育園



テーマ【 表現 】

設定した理由・背景

・自園では子どもたちに感受性や想像力を幼少期から養ってほしいという思いから、活動の合間で読み聞かせや自分たちで絵本を読める時間を多く取り入れている。その中で子どもたちからの「なぜ？何？」の疑問を探究に繋げていきたいと考え、今回のテーマに設定した。

用意した環境設定

- ・子ども自ら題材を選べるよう、自由に絵本が手に取れる環境を設定したり、読み聞かせ後に絵本の感想を聞く時間を設けたりした。
- ・購入物品：模造紙、ポスターカラー、クレヨン

～4歳児クラスの活動のあゆみ～

1月：『あしあとだ～れ』という絵本の読み聞かせから、イメージの共有

2月：室内の身近な物から戸外の自然物まで、あらゆる“あしあと”を見つけ、収集する探索活動

3月：実際に自分たちで型取った足跡や、子どもたちが気になった動物の足跡をまとめて展示。保護者や他クラスの子どもにも見て知ってもらおう。

✽探究活動の実績✽

園ではすくわくプログラム開始前から様々な絵本に触れてきた。その中の『あしあしだ～れ？』という絵本を読んだ際に、子どもたちに「足跡ってどんなものがあるかな？」と尋ねてみると、出てきたほとんどが“動物の足跡”という発言だった。他に思いつく跡があるか保育士側からもヒントを出しながら聞くと、“椅子の跡”や“鉛筆の跡”等、様々な反応があり、そこから「他にどんな跡があるだろう？」「見つけたあとを取ってみたいだろうか？」と問いかけ、室内・戸外それぞれで『跡探し』を行った。

室内では『手・足型スタンプ』を行い、「気持ちいい」「ここに線がいっぱいついてるね」等、自ら体験して実感したからこそ挙がった感想が多かった。また戸外では『自分たちで思いつく跡探し』を行うべく、数日にわたりいくつかの公園へ紙と鉛筆等を用意して出かけた。子どもたち同士で「たくさん跡を採りたいから、みんなで違う跡を探そう」という声が上がり、「今この跡を採ったよ」「私はあの跡を採ってくるね」と、各々声を掛け合いながら協力して採集に向かう姿が見られた。実際に写している最中も「これはどんな跡が採れるかな？」「この部分は跡が採りにくいね」等、苦戦しながらも上手く採れるように慎重に書き進めていた。

みんなで集めてきた跡を大きな模造紙に貼って跡探しの振り返りを行うと、友だちや保育者の手型に自分の手を重ねてみたり、自分で型取ってみた難しさを話したりと、それぞれの感想が挙がった。その他にも『足跡クイズ』で、自分たちで体験した跡探し以外からも“跡”についての興味を広げる取り組みを行った。また、すくわくプログラムの取り組みは玄関掲示をして保護者の方にも共有した。

その後の活動でも、チョーク遊びの際、友だち（4歳児）と互いに自分の周りをかたどって人型をとり合っていると、そこへ1歳児の友だちも「やってほしい」と寝ころび、型をとってあげる場面があった。とった型を見比べて「大きいね、小さいね」「型をとるの難しいな」「他の子もとってみよう」などと展開し、跡探しをきっかけに様々な表現や気づきに繋がった。



散歩先で探した後を写し取る様子



実際に比べて楽しむ様子



保護者への玄関掲示①



保護者への玄関掲示②

まとめ

“跡”という題材を選び、子どもたちと探究していく中で、大人では思いつかないような発想や表現が多くみられた。また、自分たちで考えようとする力や友だちと協力する力も身についた。協力という観点では、実際に普段行うルール遊びでも発揮されていて、すくわくプログラムが日ごろの保育にも繋がっていると感じた。もともと新しいことを知ることに関心があるクラスでもあったので、子どもたちに合った題材が選べたように思う。今後も身近な不思議に着目して、子どもたちの興味関心を広げていきたい。